

令和6年度 第2回 高山市総合計画審議会 会議録（要旨）

日 時：令和7年1月17日（金） 13時00分～14時45分

場 所：高山市役所2階201・202会議室

出席者：高山市総合計画審議会委員 28名

（欠席者2名） ※別紙名簿のとおり

高山市長、副市長、総合政策部長、総合政策課長、地域政策課長、総合政策課担当監、総合計画策定室長、総合計画策定係長

会議内容（次第）

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 会長あいさつ

4. 諮 問

市長から堀会長に第九次総合計画基本計画（案）の諮問

5. 議 事

（1）第九次総合計画基本計画について

資料に基づき事務局が説明

議長（堀会長）

- ・ 審議会として答申に向けて、意見をまとめていきたい。

倉坪委員

- ・ 6ページ基本理念について。「有形無形の財産を守り、育て、次世代につなげていくのは人であるため、」とあるが、「ひとである」と一度区切った方が、より今回の計画が「人」を大事にしていることが伝わるかと思う。
- ・ 文面中に「伝統構法」「在住」「インセンティブ」など、一般的に使われないような言葉が散見される。可能ならページの下部などに注釈を入れてほしい。より読みやすくなると思う。
- ・ 多文化共生の分野については、重点戦略にはあるが、分野別計画にもあるべきではないか。
- ・ 策定した総合計画の市民への浸透も力を入れてほしい。

上田室長

- 多文化共生は各分野の根幹にあるといった考えであるため、59ページ以降の着実な計画の推進に位置づけている。
- 専門的な用語は他にもあるかと思う。注釈を入れることについては検討させていただく。

議長（堀会長）

- 一般に市民理解が得られない表現については注釈を入れるなど、文書表現に配慮することについて検討されたい。

桑谷委員

- この内容で良いと考える。
- 今後必要なことはこの計画を実行に移すことである。今の市政はデスクワークに特化しているため、フィールドワークにも力を入れてほしい。市民の声を広く聞き入れてほしい。

議長（堀会長）

- 学区の見直しについては、今回の総合計画にも記載がある。学区の見直しにおいては市民の声をしっかりと聞く必要がある。

桑谷委員

- 学区の見直しはかなりのパワーが必要になる。10年で解決できない可能性があるがどのように実行していくかが重要である。

蓑谷委員

- あくまで総合計画であるため、内容は具体的ではないかと思うが、施策においてはスピーディに動く必要がある。
- 例えば、若者については、最近、地元に戻りたいといった若者が増えていると聞く。早期に取組み、確実に高山に戻ってきてもらえるよう取り組んでほしい。
- 空家対策について。市外所有者の物件については、保険料の高騰に伴い、火災保険の加入が減っている。火災時の延焼の問題につながっていく。所有者の把握も含め、早期に取り組むことを望む。
- 36ページの待合スペースや公園に関しては、市内には休む場所が少ないと感じている。
- 57ページの間インターに関しても、丹生川まで中部縦貫自動車がつながった場合は、高山インター以降に休憩スペースが必要と考える。中間インターは不可欠であるといった具体的な理由を付けて整備に向けて国に対して要望をすすめてほしい。

上田副市長

- 個別具体的かつ、重要な意見と捉えているため、しっかりと取り組みをすすめたい。

東委員（代理：大崎副所長）

- 公共施設の整備については国道事務所としても寄り添ってすすめていきたいと考えている。中間インターに関しても市の具体的な計画を示してほしい。計画の内容によって活用できるメニューが変わってくる。

鴻巣委員

- 48ページの農業に関して、生産者目線で農業への関心を高めるといった記述があるが、消費者も含めて、農業への理解や関心を求めるような表現にできないか。
- 交流について、こどもたちも交流していくように具体的に表現できないか。

議長（堀会長）

- 市民に伝わるよう具体的な表現に努めてほしい。

新井委員

- 37ページの道路、危機管理について。新規の主要道路網に基づいて市道を整備していくとあるが、災害時には既存の道路が緊急輸送路となる。孤立集落となりえるところには緊急輸送路、代替道路が不可欠である。市道や県道に加え、林道も代替道路となりえる。そういった視点を取り入れながら、安全安心な市域全体をカバーする道路網の施策を望む。
- 災害応援協定締結団体との連携については、締結先の団体が存続することが不可欠である。建設業としては災害時の現状復旧工事などを担っているが、存続しないとそういったこともままならなくなる。観光業や農業などと同じ、建設業も地場産業として捉え、建設業の存続や人材の育成支援などに対して取り組んでほしい。
- 48ページの森林のゾーニングに関して。林業分野に記載している取り組みについては森林環境譲与税を活用した内容かと思われるが、現在の主な活用は地籍調査を重きを置いていると感じる。生産性の高い森林のゾーニングに関しては、木材生産活動が活発となる区域への道路整備が必要で、それには、路網ネットワークの構築計画の作成が必要と考える。市道や林道、高規格産業路の新設を踏まえたランドデザインが大きく変われば、林業が栄えていくと考える。林業事業体が役割を果たす施策をすすめてほしい。
- 同ページの「安心して生業を営むことができる環境整備」の中に林業の記載がないため、記載してほしい。例えば、森林内の路網整備を推進していくことで、林業を営むための環境整備を図る、と言ったような記述があると林業に携わる市民も安心できると思う。

多賀委員

- 計画を読み込む市民は少ないと思う。一番、目に入るのは体系図かと考える。着実な計画の推進の中に「多文化共生」や「協働のまちづくり」などが含まれていることを上記の分野別計画の政策分野のように箇条書きで表現できないか。着実な計画を推進するために、協働まちづくりの取り組みが必要であると見てわかる。

川原委員

- 計画を今後どのように取り組むのかが重要。あらゆる目線に立って、考えながら住みよいまちとなるようにすすめていく必要がある。計画をどのように浸透させるかが課題かと思う。今後、様々な場面でこの計画が取り上げられるかと思う。わかりやすい表現を望む。

岩塚委員

- 各分野に満足度が示されている。どういう方を対象としてアンケート調査を実施したのか。
- 九次総に沿って市と同じ温度で取り組んでいきたいと考えている。各団体が市の動きを待つのではなく、各団体が主体となってすすめていけるような体制が必要になるかと良いと思う。そういった団体や組織が具体的に動くような取り組みを考えているのか。

上田室長

- アンケート調査は18歳以上の市民3,000人を無作為に抽出して実施した。各年代や地域別の回答内容も集計している。細かい内容は市のホームページに掲載している。
- 市民と共有することがまずは必要と考えている。より浸透するように概要版を作成する予定である。また若者へも浸透するように動画の作成も考えているところである。

松葉委員

- 民泊、ゲストハウスが乱立しているが、どこの誰がやっているかわからない。施工業者も市外の業者である。商店街振興組合としても、災害があっても連絡先がわからなく不安を感じているところである。

議長（堀会長）

- ゲストハウスについては簡易宿泊所も含めて300件ほどである。中心市街地においては200弱ほど。法的な規制は国の所管であるため市で規制することは困難であるが、市としてまちづくり協議会や町内会等と協議しており、何らかの対策を検討しているところである。

坂井昭夫委員

- 人口減少については国全体の課題ではあるが、重点戦略、分野別計画には人口減少に対する取り組みが記載されていないが、良いのか。具体的な取り組みが見えない。

上田室長

- 人口増加については、こどもの出生率の増加や若者の帰郷をすすめていくことを考えているが、分野別計画はこれらを踏まえた施策を分散して記載しているところである。

坂井歩委員

- 43ページについて、温暖化対策より気候変動への対策なのではないか。

- 31ページの学校教育にプログラミング学習の記載はあるが、今後は、生成AIに対する学習についても、初等教育、中等教育に必要でないか。今後の若者は生成AIが当たり前に活用する時代となると考える。
- インバウンドに関して、オーバーツーリズムを防ぐといった観点が必要ではないか。外国人の交通ルールのマナーに対して懸念しているところ。動画等で周知するほか実際に何らかのかたちで指導していく必要がある。
- 人口減少を止めるには、外国人労働者の受け入れが必要であるが、外国人の住居の確保が課題である。外国人という理由で入居を断るケースが多い。市として何らかの支援が必要である。また、外国人も都会に憧れがある。外国人材の確保に向けて取り組む必要がある。

山本委員

- こども・子育て、医療に関して、市内でこどもを産む場所が限られている。選択肢を充実させることも重要と考える。

堀委員

- 個別、具体的な意見については、今後検討して実施計画や個別計画で市民目線で具体的に記載してほしい。

大野委員

- 31ページの歴史文化の中に、歴史的町並みの保存とあるが、高山市は元々は歴史的町並みであることを市民が忘れていてのではないか。観光のまちと認識していると思う。原点に戻って、市全体で考えていく必要がある。古い町並自体は観光化がすすみ過ぎている。空家対策も含め総合的に考えていく必要がある。

上田副市長

- これまで市民が培った歴史、文化、伝統を外部の資本の方が良いところだけを持っていくようなところが散見され危機感を感じている。すべての外部資本企業が悪いとは言えないが、地域と共存していくため、まちづくり協定策定などの話が出てきている。検討しはじめているところなので、具体的なものを示すことはできないが、重要な課題と捉え、今後取り組んでいきたい。

北平委員

- 今後、学生の意見を聞く機会を設けるのか。学校の行事で選挙に関する授業を実施しているところもあり、生徒全員が政治に関して答えられるくらい学習している。そんな中で、政治に対する不安について、生徒から私たちの意見を聞くところがないと意見があったため、そういった場を増やしてほしい。

川原委員

- まちづくりにおいては町内加入が不可欠かと考える。町内加入が煩わしいという意見もある。不動産業者にはお願いしているが、町連だけでは正直、行き詰っているところ

ろ。解決方法は何かあるかと思う。加入する方が増えるように各組織から協力をいただきながら取り組めたらと考える。

谷口副会長

- 19ページの各主体に期待すること（役割分担）に関して。計画を見たときに、行政の取り組みが記載していると考え市民が多いのではないかと思う。市民、事業者が自分事と考え、主体的に取り組む必要があるといった書きぶりがあっても良いかと感じた。

議長（堀会長）

- 行政だけが取り組むのではなく、市民全員で取り組んでいけるように浸透させる必要がある。
- 意見も尽きたようであるので、審議を終了させていただく。今後は副会長と相談のうえ、答申文の原案を作成させていただく。答申の文面については会長に一任いただきたい。
- 今後は、第八次総合計画の検証も実施して、委員の皆さんと共有したい。

6. 閉会（上田副市長）

高山市総合計画審議会 委員名簿

No.	団体等名称	役職等	氏名	備考
1	高山市観光連絡協議会	会長	堀 泰則	
2	高山商工会議所	副会頭	蓑谷 雅彦	
3	高山市商店街振興組合連合会	副理事長	松葉 早百合	
4	高山金融協会	会長	林 雄一郎	欠席
5	連合岐阜飛騨地域協議会	事務局長	谷口 寛子	
6	高山市農業委員会	会長	鴻巣 明久	
7	飛騨農業協同組合	代表理事専務	坂井 昭夫	
8	飛騨高山森林組合	森林整備課長	向畑 学	
9	社会福祉法人高山市社会福祉協議会	事務局長	丸山 永二	
10	高山市民生児童委員協議会	委員	村中 美耶子	
11	特定非営利活動法人飛騨高山わらべうたの会	理事長	岩塚 久案子	
12	高山市連合長寿会	副会長	清水 健一	
13	高山身体障害者福祉協会	副会長	小林 幸長	
14	(一社)高山市医師会		加藤 早千代	
15	高山市教育委員会	委員	桑谷 康弘	
16	高山自動車短期大学	学長	坂井 歩	
17	高山市社会教育委員会議	議長	林 廣茂	欠席
18	(一社)高山市文化協会	理事	北平 真由美	
19	高山人権擁護委員協議会	事務局	倉坪 栄一	
20	高山市町内会連絡協議会	会長	川原 正巳	
21	大八まちづくり協議会	会長	笠井 新治	
22	国府町まちづくり協議会	事務局長	多賀 泰歩	
23	一般社団法人高山青年会議所	出向理事	山本 善大	
24	高山国道事務所	所長	東 佑亮(代理)	
25	高山市快適環境づくり市民会議推進委員会	委員	澤之向 由美子	
26	たかやま林業・建設業協同組合	副理事長	新井 裕輔	
27	高山市景観町並保存会連合会	会長	大野 二郎	
28	(一社)岐阜県建築士事務所協会	飛騨支部長	古垣内 克幸	
29	高山市消防団	団長	栗本 義浩	
30	岐阜新聞・岐阜放送ひだ高山総局	総局長	平田 成範	

(任期:R6.6.1～R8.5.31)